

【中学受験でわかる受験作戦】

中学受験で、合格実績が出ている塾が行っている指導法は、まさに大学受験で使っているものの基本だと思えます。

中学受験においては、普通の私立中学は「理科と社会」だけで合格できます。しかし、西南中学や大濠中学などの難関中学になりますと、理科と社会に「算数」の勉強が必要になります。そして、最難関の附設中学やラ・サール中などになりますと、理科や社会・算数だけでなく、「国語」まで勉強していないと合格できません。

中学入試の問題は、大学入試に出てくるような問題が大量にあります。

算数などでも、等差数列や、その和の公式などが出てきます。ましてや、国語の問題などは、大人でも読むのが難しい難解な文章が出ます。

ですから、普通の小学生は、算数や国語を後回しにして、まず「理科と社会」の暗記を仕上げます。

私は、10年の中学受験の指導歴で、高校受験や大学受験の指導に比べて短いです。

それゆえ、10年前に初めて指導した普通の小学生たちに、「算数がそんなにできないとは、何事か？」とガミガミ言っていました。

すると、その中の一人の生徒が、筑陽中学の特待生に合格しましたので、私は「ああ、算数はやりすぎで、理科と社会だけで良かったのか？」

と思いました。

筑陽中学に合格するだけでいいという親の希望に対して、特待生が取れるぐらいまで、算数まで勉強させてしまいました。

それで、本人はストレスから、よく「お腹が痛い」と言っていました。薬も量が多すぎると毒になってしまいます。

特に、大学受験と中学受験は顕著ですね。上で、附設高校の生徒たちでも、国語の点数が取れていないように、国語は受験において、

最も難しい科目であり、他の全ての科目が得意になって、手をつけるべきものです。

平成25年の大学入試センター試験の国語の平均点は、久留米附設高校が灘高校に次いで2位だったそうです。

つまり、附設中学に合格するには、全国トップクラスの国語力を身につける必要があります。

私は10年間で、附設とラ・サール以外の九州地区の難関中学には、ほぼ全て合格させてきました。

しかし、附設中学などの受験に関しましては、毎週水曜日に19時まで国語を指導している先生に助けられています。

久留米自習室に、中学受験の算数を毎日習いに来る生徒はたくさんいます。

特に多いのは、「夏休みだけ」「冬休みだけ」習いに来る、塾に通っている小学生たちは、お盆や正月などの塾の休みを利用して来ています。

「通っている塾は、夏休みや冬休みの期間で、半分しか講習がない」そうで、家でだらだらしているより、毎日算数など、わからない問題を習いに来ています。